

令和5年（1～12月） における火災の状況 （確定値）

防災情報室

1. 総出火件数は38,672件、前年より2,358件の増加

令和5年（1～12月）における総出火件数は、38,672件で、前年より2,358件(6.5%)増加しています。これは、平均すると1日当たり約106件、約14分ごとに1件の火災が発生したことになります。

また、火災種別で見ますと、下表のとおりです。

2. 総死者数は1,503人、前年より51人の増加

火災による総死者数は1,503人で、前年より51人(3.5%)増加しています。

また、火災による負傷者は5,766人で、前年より16人(0.3%)増加しています。

3. 住宅火災による死者（放火自殺者等※を除く。） 数は1,023人、前年より51人の増加

建物火災における死者1,200人のうち住宅(一般住宅、

共同住宅及び併用住宅)火災における死者は、1,127人となっています。更にそこから放火自殺者等を除くと1,023人で、前年より51人(5.2%)増加しています。

なお、建物火災の死者に対する住宅火災の死者の割合は93.9%で、建物火災の件数に対する住宅火災の件数の割合57.7%と比較して非常に高くなっています。

※ 放火自殺（心中含む。）者及び放火自殺巻き添え・放火殺人の犠牲者

4. 住宅火災による死者（放火自殺者等を除く。）の およそ4人に3人が高齢者

住宅火災による死者（放火自殺者等を除く。）1,023人のうち、65歳以上の高齢者は762人(74.5%)で、前年より31人(4.2%)増加しています。

また、住宅火災による死者の発生した経過別の内訳は、逃げ遅れ415人(前年比11人(2.6%)減)、着衣着火38人(前年比3人(7.3%)減)、出火後再進入16人(前年比1人(6.7%)増)、その他554人(前年比64人(13.1%)増)となっています。

5. 出火原因として最も多いものは「たばこ」、次いで「たき火」

総出火件数の38,672件を出火原因別にみると、「たばこ」3,498件(9.0%)、「たき火」3,473件(9.0%)、「こんろ」2,838件(7.3%)、「放火」2,495件(6.5%)、「電気機器」2,205件(5.7%)の順に件数が多くなっています。

令和5年（1～12月）における火災種別出火件数

種別	件数	構成比	前年比	増減率
建物火災	20,974	54.2%	807	4.0%
林野火災	1,299	3.4%	60	4.8%
車両火災	3,521	9.1%	112	3.3%
船舶火災	58	0.1%	▲20	-25.6%
航空機火災	1	0.0%	▲1	-50.0%
その他火災	12,819	33.1%	1,400	12.3%
総火災件数	38,672	100%	2,358	6.5%

問合せ先

消防庁防災情報室
TEL：03-5253-7526